

令和 5 年度 県立古河中等教育学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○「Σソフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)」に対して肯定的に評価している生徒・保護者」の割合が 90.9%であった。 Σソフィア・プロジェクトの各委員会と各校務部・各年次・各教科との連携の強化と組織活性化をさらに図る。	Σソフィア・プロジェクトの推進	①Σアカデミア（弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成）、Σコミュニケーション（発信力・論理力の育成）、Σサイエンス（科学的思考力の育成）、課題研究（創造力・探究力の育成）の各委員会と校務部や年次が連携し、Σソフィア・プロジェクト（古河中等式探究活動）を計画的に実施する。	A
○昨年度は、学校説明会や 10 周年記念式典、課題研究発表会等を通して、本校の教育活動の成果を発表することができた。また、広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な活動となるよう練り直す必要がある。	開かれた学校づくりと広報活動の充実	②本校の特色ある教育活動及び教育活動全般について、ホームページや各種たより等で保護者や地域の方々に順次発信する。 ③広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な学校説明会や学校公開等の実施を図る。	A
○昨年度、「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合が 88.6%であった。各教科のグランドデザイン及び年間指導計画を基に、授業形態の工夫や ICT を効果的に活用した、生徒の主體的・探究的な学習活動の継続を図る。	高い学力の育成と探究的な学習の確立	④アクティブ・ラーニング型や少人数指導、ティーム・ティーチング等の授業形態の工夫や ICT 等の活用により、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習指導及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を展開する。	B
○教員間の共通理解を促進し、「チーム学校」として職員一丸となった指導体制の構築が必要である。また、生徒の規範意識の向上と定着に継続的に取り組む。さらに、スクールカウンセラーや保護者、関係機関等との連携を密にして、教育相談体制の充実を図る。	生徒指導と教育相談体制の充実	⑤基本的な生活習慣を定着させるとともに、多くの体験活動を通して豊かな心の育成を図る。 ⑥スクールカウンセラーや担任等との面談や相談を組織的・計画的に実施し、生徒の「心の悩み」に対する支援を積極的に行い、生徒にとって安心・安全な学校生活になるよう、教育相談体制の充実を図る。 ⑦学校環境衛生及び学校安全管理の維持向上を図る。	B
○学習と探究活動の充実や手帳の活用を通じて、生徒の成長段階に合わせたキャリアプランニング能力や自己管理能力の伸長を継続的に促す。また、模試や各種テスト等を生徒自身が分析し課題解決を図る機会を設けるとともに、生徒の進路実現に向けた指導の充実を図る。	キャリア教育の推進	⑧学習と探究活動の系統的指導を通して、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。 ⑨課題を発見する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を行う。 ⑩キャリア・パスポートを活用し、学びを振り返りながら、新たな課題や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を促す。	B
○生徒一人一人の学習到達度に合わせた学習指導をさらに充実させる必要がある。	学習到達度（個）に応じた学習支援の充実	⑪生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや学習支援を行う。生徒による授業評価において、授業満足度の評価平均 3.5 以上	A
○学校全体として超過勤務時間月平均 45 時間以内をおおむね実施することができている。一方で、超過勤務時間増大となる教員もいる等、偏りが生じている。	働き方改革	⑫教育活動の効率化を図るための共通理解と情報共有、校務分掌の分散や行事の精選、見直しを実施する。 ⑬勤務時間への意識、積極的に勤務時間の削減を図り、教職員が休暇等を取得しやすい環境づくりに努める。	B

目指す学校像		具体的方策			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	豊かな心（寛容の精神、謙虚さ、思いやり）と確かな学力を兼ね備えた次代のリーダーの育成 ○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○Σソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を培う。 ○6年間の体系的なシラバス作成と学習システムを構築し、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○知的好奇心が豊かで、他者と協働して課題を探究しようという意欲のある児童 ○国際的な諸問題や医学に高い関心をもち、社会貢献への意識が高い児童 ○他者との違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる児童			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	○言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度の育成	○語彙力を向上させるための授業や課題、テスト問題を工夫するとともに、段階的な漢字検定取得の目安を設ける。④ ○発達段階に応じた新聞等を含めた多方面の読書の広がり、文章を読む習慣の一層の充実を図る。④ ○6年間を見据えた言語事項、古典学習、小論文などの系統的段階的指導の拡充を図る。④	B	B	○語彙力向上を図るため、各年次における漢字検定取得の目安設定や、本校での漢字検定実施の検討を進める。 ○表現力を高める活動において、発問や課題設定の一層の工夫を図るとともに、ICTを有効的に活用する。 ○各校務部や各年次と情報の共有及び連携体制を強化し、ディベートやビブリオバトル等の生徒の表現力を育成する機会の充実を図る。 ○Classi等を活用し、個に応じた課題の設定や基礎力の養成、発展的な学びの促進に取り組む。
	○「話す・聞く」、「書く」を中心とした言語活動を通して、表現力を高める系統的・段階的指導の充実	○積極的に表現活動を取り入れ、表現力を高める。④ ○自分の意見や考えを他に示し、書いたり、話したり、他者の意見を傾聴したりする場面を横断的に設定する。④	B		
	○生徒一人一人の思考力や表現力、判断力を高める、個に応じた学習支援の充実	○段階的にディベートやグループ活動、プレゼンテーション活動を行い、個人の論理的な思考力や表現力、判断力を高める指導を行う。①④⑪ ○個人に対する発問や課題設定をより一層工夫し、生徒一人一人が自ら考え、学び、話し合う習慣をつける。④⑨⑪	B		
社会 地歴・公民	○主体的な学びに繋がる指導と生徒一人一人の学習到達度に応じた学習指導の充実	○視聴覚教材やデジタル教材を活用し、興味関心を高める。④ ○ワークシートや小テストを継続して活用していくとともに、WEBテストを活用し、基礎基本の定着を図る。④ ○Classiの学習動画等を活用し、個に応じた学習を行う。④⑪	A	B	○Classiの活用状況と学習効果を確認し、既存の教材との併用など、効果的な活用の仕方を検討していく。 ○前期課程での指導を工夫し、書く能力や資料活用の技能、思考力を高めていく。 ○キャリア形成につながるよう外部機関との活用の仕方を検討する。
	○社会的な資料活用能力を高める指導の工夫	○地図や年表、統計グラフなどの資料を多面的、多角的に読み取らせ、社会的な資料活用能力を育成する。④	B		
	○社会的な思考力、判断力、表現力を図る指導の工夫	○社会的事象に対する自分の考えや意見をまとめさせる機会において、思考・判断・表現する力を高める指導をより一層工夫する。④ ○社会的事象に対する自分の考えや意見を実生活に結び付け、キャリアの形成につなげるよう指導を工夫する。⑨	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
数学	○学習意欲を高めるための指導の工夫	○ICTを積極的に活用し、数学的活動を通して数学的な思考力・判断力・表現力を身に付け、原理や法則についての理解を深める。④ ○学習形態や授業展開を工夫することで、生徒が主体的・探究的に学習に取り組む態度を育んだり、協働的に学ぶ意義を感じられたりできるようにする。④	B	B	○ICT活用と協働的な学びの一体化に向けた授業実践を目指すため、実践例の研究や先進校視察に参加するとともに、教員相互の授業参観の機会を増やし、授業の改善を図る。 ○習熟度別少人数授業やティーム・ティーチング等を引き続き取り入れ、生徒の学習効果を高める工夫を行う。 ○基本事項の確認や定着に向けて、Classiの活用方法の工夫や充実をさらに図る。
	○基礎基本の定着を図るとともに応用力の育成を図る指導の工夫	○小テストや単元テストを通して基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、より発展的な学習内容を取り扱い、難関大学受験に対応できる高い学習能力の育成を図る。④	B		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、習熟度別少人数授業やティーム・ティーチング等の授業形態を工夫するとともに、Classi等のICT教材を活用して個に応じた課題の設定や補習を行い、学力の定着と向上を図る。④⑪	A		
理科	○自然の事物・事象に自ら進んで関わる態度の育成	○学習計画を活用して、見通しをもって授業に取り組ませるとともに、一人一人の生徒の疑問や気づきを取り上げ、日々の授業に生かす。④ ○SCIENCE NEWSなどで最新の科学の話題を提供し、生徒の興味・関心を高める。④ ○校外での体験的な活動や実験・観察を計画・実施する。④	B	B	○アクティブ・ラーニング型の授業形態の工夫やICT等の活用により、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習指導及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を充実させる。 ○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じた学習活動の工夫や学習支援を充実させる。
	○科学的に探究する力の育成と学習到達度(個)に応じた学習指導の充実	○基礎基本の定着のための課題提示や小テスト等を継続的に行う。④⑪ ○実験・観察の授業展開における予想・考察の場面において、アクティブ・ラーニング型の授業形態を積極的に取り入れ科学的な思考力・表現力の育成を図る。④⑪ ○ICTを積極的に活用し、個に応じた学力の育成に十分配慮した学習活動の工夫と支援を図る。④⑪ ○実験器具等の充実を図り、実験を多く取り入れた授業を積極的に行う。④	B		
音楽	○個に応じた学習支援を通じた、音楽表現に必要な技能を高める指導の工夫	○学習カードの活用や実技チェックを通して、生徒が目標を明確に把握しながら音楽表現の技能や表現力を高めていけるよう指導する。④⑪ ○個別指導を充実させ、生徒一人一人の現状に合った課題を提示しながら、実感を伴った知識・技能の習得を目指す。④⑪	B	B	○生徒の実態を把握するための理解度チェックや実技チェックの機会を増やし、個に応じた指導の充実を図る。 ○ペアワークやグループ活動を通して、生徒同士の学び合う機会の充実を図り、主体的で探究的な深い学びの実現を目指す。 ○「伝統音楽」や「世界の音楽」等において、体験的学習を取り入れ、指導の充実を図る。
	○他者と協働しながら主体的に学習に取り組む態度の育成	○アンサンブルや合唱等の活動において、他者と交流しながら主体的に音楽表現を生み出していけるよう指導する。④ ○ペア学習やグループ活動を多く取り入れ、助言と修正のサイクルを体験しながら音楽表現を創意工夫する力を養う。④	A		
	○音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成	○我が国の伝統音楽や世界の様々な音楽に触れ、文化的・歴史的背景に目を向けながら音楽の良さや美しさを味わえるよう指導する。④	B		
美術	○個に応じた学習支援と主体的な授業の工夫	○前期課程において、基本的な道具の扱い方や技法を習得させ、自らの表現に生かせるような題材設定を行う。また、後期課程ではより実践的な内容を扱い、専門的な知識や技術の習得を図る。④⑪ ○生徒同士の学び合いの活動を通して、生徒が自主的・主体的に制作活動や他の作品の鑑賞を行い、様々な分野における発想・構想の能力の向上を図る。④⑪	B	B	○学校行事を見据えながら授業展開を工夫し、美術展覧会や応募作品に向けて計画的に作品制作の締め切りを設定する。 ○題材ごとに作品鑑賞の時間を設定し、相互に完成作品を鑑賞し合うことで、作品制作への意識をさらに向上させる。
	○自然美や美術作品の理解・見方を広げ、美術文化を味わう鑑賞の能力の育成	○美術作品の制作活動と鑑賞を通して、美術文化への興味・関心を高めるとともに、形や色彩、材料、光などの性質や作者の感情、作品の内容を読み取り、鑑賞能力を高める。④	B		

評価基準 A：十分に達成できた。 B：概ね達成できた。 C：やや不十分であった。 D：達成できなかった。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	○言語活動の充実	○実技の活動時間を確保し、生徒同士が協力して、主体的・対話的な授業の実践を効果的に行えるように助言する。 ④ ○学習カードを活用し、対話のある活動を工夫する。 ④	B	B	○実技の活動時間を確保するとともに、学習カードの形式や取り組み方を再考し、効果的で対話的な授業の実践を目指す。 ○ICTを活用した活動の充実を図る。 ○体育理論を体力の向上へ生かせるように指導を行う。
	○個に応じた支援を通した、自ら体力を高める授業の展開	○基本的な生活習慣を定着させるとともに、体力テストの結果から自己分析を行い、各年次・発達段階や性差、個人差を踏まえた主体的に取り組める基礎体力向上のための補強運動や練習方法の指導を行う。 ④⑤⑪	B		
	○適切な意思決定を行うための能力を育てる保健学習の展開	○様々な健康問題について、ICTを活用したペアワークやグループ学習を取り入れ、自分の将来を見据えた、適切な意思決定につながる思考力や判断力の向上を図る。 ④	B		
技術・家庭	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。 ⑪	B	B	○学習到達度を把握するために、技能テストや製作の進捗状況を記入する表を活用した。個に応じた支援において、ミニティーチャーの活用を検討していく。 ○ラーニングジャーナルを活用し、習得した知識を他者に伝える活動を継続する。 ○新しい技術の発達等の分野における学習をさらに充実させるため、問題解決の場面の工夫や指導計画を再考する。
	○基礎基本の定着を目指した指導と言語活動の充実	○実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように活動を組み立てていく。 ④⑤ ○ICTの使用だけでなく、情報モラルについての学習も他教科と連携を図りながら進めていく。 ④⑤	B		
	○生活や社会とのかかわりを深める指導の工夫	○授業の導入や終末で、学んだ技術や知識の生活への活用を考えさせることで、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせるようにする。 ④ ○新しい技術の発達や環境とのかかわりに目を向け、持続可能な社会の実現を意識した指導計画や題材を工夫する。 ⑤	B		
外国語(英語)	○4技能をバランスよく育成する授業の工夫	○1時間の授業や単元を通して、4技能がバランスよく育成できるように、ウォームアップやコミュニケーション活動を工夫する。 ④ ○アウトプット(ライティング・スピーキング)を意識したインプット(リスニング・リーディング)を意図的・継続的に行う。 ④	A	A	○前期課程において、授業中の声掛けを充実させ、生徒の成功体験につながるような活動の工夫や支援に努める。 ○文法や構文への理解の定着を目指し、和文法や構文を意識した和訳や英訳の指導の充実を図る。 ○生徒が自主的に課題を活用することができるよう、指導計画や指導方法の改善に努める。 ○語彙や文法の定着を図るため、生徒の家庭学習の習慣化を目指した指導に努める。
	○表現力・論理的思考力の育成	○文章全体の論旨を読み取ったり、聞き取ったりすることを意識した活動を計画的に行い、論理的に考えたり表現したりできる生徒の育成を目指す。 ④ ○スピーキングやライティングの系統的・段階的指導を体系立てて行うべく、年次間の情報共有に努める。 ④ ○授業、課題、テストにおいて英作文や自己表現作文、パフォーマンステストなど、表現力の育成につながる題材を積極的に取り入れる。 ④	B		
	○個に応じた学習支援の充実と異文化理解	○Classiの活用、小テストや週末課題等を継続的に実施し、基礎・基本の確実な定着と生徒一人一人の学習到達度に合わせた学習指導の充実を図る。 ④⑪ ○1年次から5年次まで行われる各語学研修を系統立てて実施し、異文化に積極的に触れ、理解しようとする態度の育成を図る。 ①④ ○ICT機器を活用した授業の研究・実践を行い、生徒の理解と表現の能力を伸ばす指導につなげる。 ④⑪	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
家庭	○基本的な知識や技術を身に付けさせる指導の工夫	○感染症予防に努め、年間計画の実習等を柔軟に変更できるように対応しながら、各学習内容を進めていく。 ④ ○消費者教育では、専門的な知識を深めるため、ゲストティーチャーによる講演等の実施を検討する。 ④⑤	B	B	○感染症予防に努めながら、知識や技術を身につける実習計画を立て活動の充実を図る。 ○専門家の講演等を実施し、知識を深め生活に生かせるよう工夫を行う。 ○人生設計を組み立て、社会で共生する力の育成を図る。 ○製作実習未完成の場合は、補習を行い完成した達成感の充実を図る。
	○日常生活と社会とのつながりを結びつける授業の展開	○現在と未来の自分の立場に立って気持ちを考えさせ、家族や地域との関わりについて関心をもたせるなど、学んだことを実際の生活の中で生かすことができる力を育てる。 ④⑤	B		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。 ⑪	B		
情報	○基本的な知識や情報モラルの習得に向けた指導の工夫	○情報教育における「情報を収集する活動」や「情報を判断する活動」、「インターネットの特徴や仕組みを理解する活動」、「情報モラルの必要性や情報に対する責任について考える活動」などを通して、基礎知識や情報モラルの習得を図る。 ④	A	A	○データ活用(モデル化とシミュレーション)の技術の向上を図る。 ○データ処理能力やデータを視覚化する技術の向上を図る。 ○プログラミングについての知識や技術の向上を図るため、指導計画を再考し、指導方法の工夫に努める。
	○情報化社会の諸課題を主体的に解決し、創造的な能力と実践的な態度の育成	○情報化社会の諸問題について、グループで課題を提起し合い、ブレインストーミング法などを利用し問題解決を図ることで、より実践的な能力を育成する。 ④	A		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。 ⑪	B		
学校設定教科・科目 総合・ *Σリサーチ	○課題発見・情報活用能力の育成	○身のまわりの様々な事象や学術的な研究成果に目を向け、自らの課題テーマを見つける。また、それに関連する情報を集め、基礎的知識を身に付ける。 ④	B	B	○課題発見や情報活用能力の育成において、各年次や個に応じた工夫を行い、生徒の探究的な活動や学びの充実を図る。 ○課題研究発表や論文作成に向けて、ICT活用能力や表現力・発信力の向上を図る。
	○課題解決能力の育成	○設定した課題を解決するために、具体的な研究計画を立てることを通して、論理的な思考と手法及びICTを活用した表現力等を身に付ける。 ④	B		
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや支援を行う。 ⑪	B		
プロジェクト 推進委員会	○Σソフィア・プロジェクトの推進	○Σアカデミア(弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成)、Σコミュニケーション(発信力・論理力の育成)、Σサイエンス(科学的思考力の育成)、課題研究(創造力・探究力の育成)の各委員会と校務部や年次が連携して、Σソフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)を計画的に実施する。 ①④⑧⑨⑪⑫	A	A	○6年間の継続した教育活動を通して、生徒の資質や能力を育成するとともに、各事業部の連携をさらに強化し、探究を軸とした学びの充実と進化を図る。
教務部	○自主的・主体的な学習、探究的な学習の確立	○アクティブ・ラーニング型の授業やICTを活用した授業のより効果的な手法の研究と実践、及び少人数指導やティーム・ティーチングなど生徒の実態や授業内容に応じた授業形態の工夫により、よりきめ細かな学習指導の充実を図る。 ①④⑪ ○生徒の学習到達度に応じた学習支援の充実を図るため、SUTの時間やICT教材等の効果的な利用を推進する。 ①④⑪	B	B	○ICT教材等を活用し、個別最適な学びをさらに充実させるとともに、協働的な学びとを往還し、より質の高い学びの実現を図る。 ○最新の教育事情の理解や教育手法の習得を目指し、教職員向けの研修会等の実施や情報の共有を図る。 ○オープンスクールや学校公開の内容を引き続き検討し、より一層戦略的で効果的な実施を図る。
	○広報活動の充実	○学校案内等の作成・配付による学校紹介の充実を図る。 ② ○本校の特色ある教育活動及び教育活動全般について、ホームページや各種たより等で保護者や地域の方々に順次発信する。 ② ○広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な学校説明会や学校公開等の実施を図る。 ③	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
生徒指導部	○基本的生活習慣の確立	○日常的に挨拶や礼儀、服装、遅刻指導等を実施し、規律ある生活態度を養う。 ⑤	B	B	○登下校指導を定着させ、挨拶や服装・遅刻指導の充実を図る。 ○生徒指導に関わる定期的な情報交換会を設定するなど、共通理解・情報の共有化を図るための指導体制を整備する。 ○情報機器利用に関するマナーや規範意識の向上を目指し、年次・各クラスにおける道徳的指導を計画的に行う。 ○不登校生徒に対する組織的な対応の実現、関係諸機関との効果的連携。
	○生徒指導体制の確立	○定期的に情報交換の場を設けることにより、教員間の共通理解・情報の共有化を図り、いじめ防止対策等、組織的な生徒指導体制を確立する。 ⑤⑥	B		
	○交通安全教育、スマホや情報機器利用に関するマナー教育の充実	○交通ルール遵守の啓発を図り、事故防止に努め、生徒の規範意識を高める。 ⑤ ○携帯電話やインターネットの正しい利用法とネット犯罪からの自己防衛の思索を促す。 ⑤	B		
	○教育相談体制の充実	○生徒一人ひとりの悩みに真摯に向き合い、年次や学校が一丸となった組織的な対応に努める。 ⑥ ○生徒と教員、教員と保護者の信頼関係の構築を目指すとともに、関係機関やスクールカウンセラーとの連携を密にし、不登校の早期対応及び問題行動の未然防止に努める。 ⑥	B		
進路指導部	○キャリアプランニング能力の育成	○生徒が将来への考えを形成し、構想、創造するための活動や授業の実施を図り、キャリアワークの工夫に努める。 ⑧⑨⑩ ○学校生活の系統的指導の中で、キャリアプランニング能力の育成に努める。 ⑧⑨⑩	B	B	○各年次との連携・協力体制をさらに強化し、生徒が主体的に進路行事に参加できるような内容の工夫や充実を図る。 ○模試の分析や体験活動等の振り返りの時間を十分に設け、自らの課題の気づきにつながる指導を目指す。 ○土曜講座の内容を検討し、生徒一人一人にとって必要な学習や体験、キャリアプランニングの機会を創出する。
	○課題発見・課題解決能力の伸長	○基礎的・汎用的能力の育成のため、見通しをもった体験・経験の蓄積を促す。 ①④ ○外部模試や各種検査、体験学習等の中で、課題を発見し解決する能力の伸長を促す。 ①④⑨	B		
	○系統的キャリア教育の実施と支援体制の確立	○模試分析やポートフォリオ等を活用して生徒の現状を把握し、生徒一人一人の進路希望や学習状況に応じた支援体制を強化して面談等の指導の充実を図る。 ④⑥⑧⑨	B		
保健厚生部	○学校環境衛生の維持向上	○感染予防対策（体調管理チェック・施設設備の消毒・三密回避など）を継続し、安全な学校環境の保持に努める。 ⑦ ○各種定期健康診断や日常の健康観察や健康相談により、心身の健康問題を有する生徒の早期発見と事後指導による改善に努める。 ⑤⑥⑦ ○学校環境衛生の検査や管理を適切に行い、その維持改善を図る。 ⑦	B	B	○生徒に対し、学校環境衛生及び学校安全管理の維持向上を図るためのはたらきかけを充実させる。 ○担任等との相談を組織的・計画的に実施し、生徒の心身の健康問題に対する支援を積極的に行う。
	○学校安全管理の維持向上	○生徒の発達段階に応じた安全対策・安全教育を計画的に行い、危機管理・安全能力の育成を図る。 ⑦ ○安全点検などを計画的に行い、安全な学校環境の維持向上および改善を図る。 ⑦	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
特別活動部	○学校行事の目標を実現するための指導の充実	○生徒会、実行委員会、ホームルーム委員長を各種行事の企画・運営の中心とし、生徒の自主的・自発的な活動を促す。 ④ ○年次単位の行事も含め、各種行事を通して人間性や社会性の育成を図る。 ④⑤	A	B	○各行事や生徒会・委員会活動、部活動において、生徒の主体的な活動の場となるよう教員の積極的な関わりを促す。 ○各行事の縮小と負担軽減を前提とした検討を行う。 ○体育祭の開催の有無と、開催の場合の日程・内容の検討。 ○表彰式の回数と形式の検討。 ○キャリア・パスポートの活用について、効果的な教育活動となるよう、工夫・改善を図り、学校全体での共通理解を図る。
	○よりよい人間関係を築く力、道徳的実践の指導の充実	○人間性や社会性の育成を図るために、感染症対策を考慮し、地域や各機関と連携して自然体験活動や社会奉仕体験活動等の計画を行う。 ④⑧⑨	B		
	○豊かな人間性、社会性を身に付けるための集団活動の充実	○豊かな人間性や社会性を育むために、生徒会活動、部活動、委員会及び係活動の活発な活動を支援する。 ④⑤ ○各教科と連携しながら文化的体験活動等の積極的な推進を図る。 ④⑤	A		
	○効果的なキャリア教育の実現	○生徒や地域の実態にあわせてキャリア・パスポートを作成し、活用を促すことにより効果的なキャリア教育を行う。 ⑧⑨⑩	B		
渉外部	○PTA組織のあり方の検討	○各年次後援会等と連携し、PTA総会、本部役員会、専門委員会等で今後の課題・展望について意見を集約し、PTA活動の活性化を図る。 ②	B	B	○令和7年度の県西地区PTA連絡協議会の幹事校に向けて、講演等の見通しを固め、準備を進める。 ○茨城県で開催される全国高等学校PTA連合会に向けて、運営協力に努める。
	○専門委員会活動の活性化	○事業推進・危機管理・研修・広報・教育支援の各委員会活動を活性化させ、学校行事での協力、ホームページでの広報活動、保護者向け研修活動などの充実を図る。 ②③	B		
図書部	○図書館利用の促進	○図書資料を拡充させ、「読書センター」としての機能の充実を図る。 ① ○図書希望調査やリクエストカードを利用し、生徒や教職員の希望に応えられるようにする。 ① ○図書館だよりや図書館報による広報活動を充実させる。 ① ○探究活動や小論文など、教職員、生徒の学習に資する図書資料を整備し、「学習・情報センター」としての機能を目指す。 ①	A	A	○各教科への図書希望調査やリクエストカードの利用により、ニーズを踏まえた資料の拡充を継続し、更なる図書館利用促進を目指す。 ○活動に能動的に参加しようとする姿勢が図書委員のあいだに醸成されつつある。生徒間で活動を受け継いでいくことができるための支援を模索する。
	○図書委員会の活動の活性化	○図書委員会主催の行事を委員会主体で運営できるよう支援する。 ① ○各種広報活動(図書館だより、新着図書案内、図書館報)や図書館内の環境整備について、委員会の積極的な活動を支援する。 ①	B		
情報管理部	○校務支援システムの利用環境整備	○校務支援システムに関わる作業の校内マニュアルを作成し、利用環境の整備に努める。 ④	A	A	○校務支援システムの利用を徹底するために、定期的な声掛けや周知を行う。 ○生徒向け貸し出し端末の点検・整備に努める。 ○校務におけるICT利用において、ルール等の周知徹底を図り、活用の充実を目指す。
	○ICT環境整備とコンピュータ教室の管理	○ICT機器の台帳を整備し、授業での活用に向けて周辺機器の整備を行う。 ④ ○コンピュータ教室の定期メンテナンスを行う。 ①④	A		
	○教科指導や校務におけるICT活用の推進	○校務におけるICTの利用ルールの策定と教員間の共通理解を強化する。 ④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
事務	○予算の効率的な執行を図る	○購入伺、予算要求計画書等による計画的かつ効率的な予算執行及び編成を行う。①③④⑦⑨ ○全職員で節電・節水等についての共通理解を図る。⑦	B	B	○光熱水費の単価が下がり予算上問題は生じなかったが、省エネに向けて教職員や生徒への協力を求める。 ○ペーパーレス化に伴い、率先して電子決裁の利用を促進する。 ○計画的な校内美化・整備を継続して実施していく。
	○法令遵守による事務手続き	○地方自治法、地方自治法施行令、茨城県財務規則等を遵守した会計事務の手続きを行う。⑪ ○教育委員会公印規則、教育庁文書管理規程、県立学校庶務規則に基づく押印や文書発送、文書収受等の手続きを行う。⑪	B		
	○教育環境の整備を図る	○年間計画による樹木剪定や除草作業等の環境美化を図る。⑦ ○定期的に校舎保全のための校内外巡視を行う。⑦	A		
第1年次	○基礎的な生活習慣の確立と自主的・自立的な態度の育成	○あいさつや時間遵守、礼儀やマナーについて、年次集会やホームルーム等で適時指導を行い、本校生としての基礎的な生活習慣の定着を図る。⑤ ○ホームルーム委員や各委員、係活動を充実させるとともに、学級活動の時間を充実させ、生徒が主体的に取り組めるような行事を企画し、自主的・自立的な態度を育成する。⑤	B	B	○時間を守る、身だしなみを整えるなどの基本的な生活習慣の定着に向けて、引き続き声かけを継続していく。 ○係活動や学級活動、行事を通して、生徒主体で活動できる場の設定を図る。 ○生徒が自主的に classi を自宅で活用できるような支援の工夫を図る。 ○Σソフィア・プロジェクトや進路学習を通して、様々な体験をしたり、講演を聴いたりすることで、自分の進路選択の幅が広がっている生徒が見られる。教師からも意識的に声かけをし、生徒の意欲をさらに高めていく。
	○学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○授業に真剣に取り組ませるとともに、Classi 等を活用しながら、生徒の実態に合ったホームワークの内容を精選し、学習習慣の定着を図る。④⑪ ○SUTの時間を活用し、学習に関する個別面談や学習支援を実施し、生徒の学力向上に努める。④⑪	B		
	○視野を広くもち、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○面談を定期的実施し、生徒が安心して生活し、目標に向かって努力することのできる環境づくりに努める。⑥ ○Σソフィア・プロジェクトの実践や進路学習等を通して、高い目標をもたせ、全力で努力する態度を育成する。①⑧⑨⑩	B		
第2年次	○個に応じた学習支援を通じた、確かな学力とより高い適応能力の育成	○SUTを活用し、学習に関する個別相談や学習支援等を行い、学習意欲と学力向上に努める。④⑪ ○家庭学習の定着を図るため、Classi を活用し日々の学習時間を管理するとともに、WEB テスト等を配信してホームワークの内容の工夫に努める。⑪ ○国内語学研修や研究所訪問、各教科の学習を通して、様々な分野への関心を高めるとともに、他者との関わりの中で社会に適応できる力(コミュニケーション能力・創造力・表現力等)を培う。④	A	B	○定期的に行っていた担任、副担任との面談を継続していくとともに、学校生活や学習に対しての意欲が低下しないようにしていく。 ○教科だけではなく、年次としての Classi の活用方法を確認し、より効果的な活用の仕方を検討していく。 ○後期課程や将来を意識させるという点において、年次行事などでキャリア教育との関連をもたせていく。
	○多くの体験活動を通じた豊かな心の育成と自主的、自立的に行動する態度の育成	○学級活動や年次活動において、生徒一人一人が役割を認識し、自ら判断し行動する態度を育成する。⑤ ○年次行事や他年次との交流会など、生徒による主体的な行事の企画・運営を推進し、企画力や実行力を培う。⑤	B		
	○課題発見能力や自己管理能力の伸長と、夢や目標の実現に向けて努力をする態度の育成	○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、課題解決に向けての支援に努める。⑧ ○キャリア教育を充実させ、将来の夢や目標を常に意識した学習への取り組みができるよう支援する。⑨⑩	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第3年次	○豊かな人間力の育成と学習到達度(個)に応じた学習支援の充実	○前期課程としての基礎学力の定着のために「バーチャル高校入試合格」を目指し、具体的な目標の設定と学習到達度の自己把握を計画的に行えるよう、個別指導の充実を図る。④ ○後期課程への移行を見据え、学力別の少人数集団を形成し、SUT等の時間を利用して生徒の実態に合った補習を行うことで、学力のさらなる向上を図る。⑪ ○Σソフィア・プロジェクト関連行事を通して、社会に適応できる力(コミュニケーション能力、創造力、実行力、発信力等)を身につけ、豊かな人間性を育む。⑤	B		○「バーチャル高校入試」を通して身に付けた基礎力、応用力を生かせるよう、学習習慣の確立や授業展開の工夫に努める。 ○生徒がリーダーシップを発揮する場面や行事を定期的に設定し、企画や運営方法を学ぶ機会の充実に努める。
	○自主的、自立的に行動する態度の育成	○後期課程への移行を見据え、様々な場面で、自ら判断し自ら行動することを意識できるよう支援する。⑤ ○前期課程最高年次としての自覚をもち、行事等におけるリーダーシップを発揮するとともに、主体的な活動や行事等の企画・運営を推進する。⑤	B	B	○異年次間の交流を通して、下級生を導いたり、将来について考えたりする機会の充実を図る。 ○Σソフィア・プロジェクトの活動において、教員の共通理解を進め、生徒の探究的な学びを深める指導の工夫に努める。
	○後期課程に向けた進路選択の準備と目標の設定	○筑波大学、茨城県立医療大学の訪問や、職業や大学、学部の適正検査を用いて後期課程に向けた具体的な進路選択への意識高揚を図る。⑧ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、将来の職業選択を見据えた具体的な目標設定の支援に努める。①⑧⑨⑩	B		また、後期課程の課題研究へのステップとなるようさらなる改善に努める。
第4年次	○個に応じた学習支援を通じた、確かな学力と豊かな人間力の育成	○普段の授業を大切に、学習に積極的に取り組むとともに、各種テストの分析を行い、個別指導の充実を図る。④⑪ ○学校生活の中で、社会に適応できる力や責任ある行動をとり、後期生としての自覚(自律・自立・責任)を意識できるように努める。⑤	B		○成績上位層の伸長と下位層の底上げを強化するため、授業や土曜講座、校外模試等の振り返りを生徒自身が行うとともに、学習意欲を高める手立ての工夫に努める。
	○自主的、自立的に行動する態度の育成	○学校生活・社会生活のあらゆる場面で、自ら判断し自ら行動することを意識できるように支援する。⑤ ○学校・学級の一員であることを意識し、生徒による主体的な活動や、様々な学校行事の企画・運営を推進する。⑤	B	B	○年次集会や進路行事等を通して、後期生としての自覚や主体性をさらに促す。 ○生徒の進路選択や目標設定において、意識を高めるための支援を継続するとともに、進路講演会や卒業生・異年次生との交流活動等(Σソフィア・プロジェクト)の充実を図る。
	○具体的な進路選択の準備と、後期課程における目標の設定	○進路講演会や、後期課程での課題研究・体験学習を行うことにより、進路選択への意識を高め、文型・理型の選択に生かす。⑧⑩ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、将来や進路における目標設定の支援に努める。①⑧⑨⑩	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第5年次	○学力の向上と、発展的な学習姿勢の確立	○授業の質を高め、生徒自らが主体的に学習に取り組む姿勢を育むとともに、特に英・数における習熟度授業での成果を上げる。また、各種テストの分析を図り、学力向上に努める。①④ ○校外模試や大学の公開講座等を積極的に受講させ、校内では体験できない事柄に積極的に参加させることで、教科にとらわれない学力の向上を目指す。⑤⑩ ○修学旅行では、現地での自主的な学びを促進する態度の育成に努める。④	B	B	○学習への取り組み、進路についての考え方など個人差が大きくなり、個に寄り添った指導に努める。 ○最終学年として、校内外の様々な行事、大会等を通して精神的な充足感・達成感が得られるような支援が求められる。 ○様々な取り組みに対して主体的にとらえられず、困難な状況に向き合えない生徒が見られる。自ら課題解決できる力の育成が必要である。 ○新教育課程対応の大学入試情報や動向を収集し、生徒、保護者と共有するとともに、個別面談などを通して、生徒が自分自身で目標の実現に向けて努力するための方策を工夫していく。
	○豊かな人間性と積極的に行動する態度の育成	○様々な学校行事を通して、6年次と共に学校全体を牽引する態度を育てる。①⑤ ○委員会・部活動においても、学校のリーダーとして積極的に行動できるようにする。⑤ ○個人研究を通して、課題解決の方策を提言する発想力やプレゼンテーション能力の育成を図り、これからの社会人に必要な「生きる力」を身に付ける。⑧⑨	B		
	○具体的な進路選択の準備と、目標の設定	○面談を通して、生徒が自分自身の力を把握し、目標を実現するための方法を考えさせるようにする。⑧⑨ ○課せられた課題等を克服する手段を構築できるようにする。⑨ ○オープンキャンパス等への参加を積極的に行い、進路目標の設定を行う。⑧ ○模試の振り返りや大学別研究会等を通して、生徒一人一人が自己の学習到達度を把握できるよう、個に応じたアドバイスや学習支援を行う。⑪	A		
第6年次	○学力の向上と、探求的な学習姿勢の確立	○学習到達度に応じた授業や課題を工夫し、学習に積極的に取り組む姿勢を育むとともに、校内及び外部模試の分析と個別指導を実施し、学力向上に努める。④⑪ ○自身の進路希望と併せ、探求的な学習を奨励し、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習環境、及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習環境の整備を行う。④	B	B	○生徒自身で学習課題を見だし、計画的に学習に取り組む態度の育成や学習環境の整備に継続して取り組む。 ○学校行事等において、リーダーシップを発揮する機会の充実を図るとともに、社会に適応できる力の育成をさらに進める。 ○生徒一人一人の進路実現に向けた面談の継続を図る。 ○Σソフィア・プロジェクトの活動で身に付けた力を進路実現に生かせるよう、支援の充実を図る。
	○豊かな人間性と自主的・自立的に行動する態度の育成	○学校行事等のプロジェクトで中心的な立場となり、同時に下級生への指導もできる人材を育て、社会に適応できる力（コミュニケーション能力、創造力、社会性、実行力、発信力等）を育む。⑤	B		
	○先を見通した具体的な進路選択の準備と、結実期における目標の設定	○面談を積極的に行い、進路に関する多様な体験活動や探究活動を進め、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。⑧ ○Σソフィア・プロジェクトの実践を通して、様々な分野への探究心を高め、最終年次における進路実現への支援に努める。①⑧⑨⑩	B		